

琉球大学学術リポジトリ

原稿：『植民及植民政策』第九章 植民地の価値

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: 矢内原, 忠雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38385

矢内原忠雄文庫

史料名	原稿『植民及植民政策』第九章 植民地の價值 (植309～331、332～366)
封筒番号	466
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月21日
撮影者	富士写真フイルム 株式会社
備考	

植民地の
形式的
価値と
實質的
価値の
比較

(+) ATHENA

309

「歐羅巴が亞米利加の發見及び植民より得たる利益」を、アダムスミスは次の如く數へた。BK IV. CH VII. PT. III. Column 2, L. II.

1. 「歐羅巴を一大國として見たる場合の一般的利益」

a. 享樂（消費）の増加。——「この發見及び植民なくしては得られざりし便宜有用娛樂或は裝飾用の各種貨財の供給」

b. 産業（生産）の擴張。——亞米利加と直接間接に通商ある國は勿論、何等亞米利加の生産品を輸入せざる諸國も、すべて、その餘剰生産に對する市場が擴張せられ、從て生産の數量増加を促進せらる。

2. 植民國がその統治に屬する植民地より得る特殊的利益

a. 各國加の領土より得る共同的利益

1. 軍事的及び財政的援助。

b. 亞米利加に於ける植民地の如き特殊な性質を有する領土より得ると思はせらるる

1) Smith, A. Wealth of Nations, Vol. II, P. 91-92 BK IV, CH VII, PT. III. (Vol. II, P. 91-92)

第九章 植民地の價值

- 一 實質的植民の一般的利益
- 二 實質的植民の植民國に對する利益
- 三 植民地領有の價值
- 四 植民の原住者に對する價值



3

条件あり見出し制ありあり。土地は人類居住
 場所、殊に食糧^{物産}の場所として、人類生活
 の第一要件であり、土地の缺乏は人類の繁栄殖
 民に對する一大障礙である。而して人口増加は
 最も障礙は人類の歴史に暗影を投ずるもの
 である。工業の發達に伴ふ都市集中の多數の
 人口と持力を有するは事實なること、そのす
 る地球上に於けるより多き食糧及び原料の供
 給^{必要}を要する前提^{とす}である。況んや都市集中の
 生活の人類生活の強健なる發達に及ぼす弊害

蓋し

七市省却するを得ない。今、植民は一地方に
 過剰な人口を移す地域に移植すること、
 是の地域を人類の利用範囲に添加
 することであり、且つ移す地域は異なる社会
 群との接觸は人類の経済的社会的治御の強健
 なる發達を刺戟するものであるから、植民は
 量的及び質的意味に於て人類の増殖發達に有
 利なりと言へぬを得ぬ。干戈が止まらば人口
 過剰の植民する所は主張し、その理由の一
 として「ミニシワピ」谷が、ト、に全歐の人口

3
植
9.11

4
種
312

林業の
経済的
発展

(+) ATHENA

土地はたいに地味の人口支持力を切加する
 うみならず、又人類居住生活の内容を豊かに
 する。即ち、(人類の利用し得る) 土地は天然資源に
 範囲を擴大し、労働及び資本の生産力を増し
 、(階級) 社会的分業を發達せしめ、以て人類の居住
 とその生産及び消費の能率を益に増進し、
 土地の生産力に於て種

土地の生産力も維持せんとせば、(従つて) 土地は常に人
 類の生存の必然的要求に依り、(共に) 土地の価値は
 人類にとりて益の利益を豊かに興ふるもやぶ
 である。
 土地の生産力も維持せんとせば、(共に) 土地は常に人
 類の生存の必然的要求に依り、(共に) 土地の価値は
 人類にとりて益の利益を豊かに興ふるもやぶ
 である。
 土地の生産力も維持せんとせば、(共に) 土地は常に人
 類の生存の必然的要求に依り、(共に) 土地の価値は
 人類にとりて益の利益を豊かに興ふるもやぶ
 である。

1) Engels, F. Umriss zu einer Kritik der
 Nationalökonomie. (Diehl und Mombert. Lesestücke
 zum Studium der politischen Ökonomie, Bevölkerungs-
 lehre. S. 225)

増産の
効果

(+) VNEHIV

生産の
増加

319

新化し進歩せしむ。植民地より生産する種類
 の便宜 ^{有用} 娯楽装飾用の女性貨財が人類の消
 費に加へられた。左とへは砂糖 珈琲 ^{の如き嗜好}
 品より海沿に民衆の必需品と化した。 ^{植民地}
 中産階級 ^の 洋装は向上 ^た たりと見受けし
 品 ^も 亦 ^も 工業的 ^大 生産 ^は 椰 ^は 花 ^は
 護謨 ^等 ^の 如き ^も 亦 ^も 植民地より供給せらるること
 により ^も 始め ^も 可能 ^な である。且つ植民地の市
 場 ^と して ^の 重要 ^な には ^も 前章 ^に 述べ ^ら れた。

植民地 ^は 故 ^に 消費 ^及 び ^も 生産 ^の 単位 ^は 増加
 といはん ^も 亦 ^も 寧ろ ^も 新 ^な 生産 ^の 創造 ^は あり
 、 單なる ^も 市場 ^の 延長 ^と いかん ^も 亦 ^も 寧ろ ^も 新 ^な
 購買 ^力 の ^も 創造 ^は あり。 ^之 により ^も 旧 ^な 社会 ^の
 秩序 ^を 破壊 ^{する} こと ^も 亦 ^も 植民地 ^も 亦 ^も 常
 力 ^{資本} 及び ^も 進歩 ^{せる} 秩序 ^{破壊} の ^も 輸入 ^を 受け ^て
 、 新 ^に 世界 ^{秩序} に ^も 引 ^き 入 ^れ ら ^れ る。 ^而 して ^も 人
 類 ^{全体} より ^も 見 ^え ざる ^も 資本 ^の より ^も 生産 ^的 な
 る ^も 分布 ^を 進 ^め ら ^れ る ^も 亦 ^も あり。 ^ミ ル ^は 生産 ^に
 及 ^ぶ 植民地 ^の 利益 ^に 関 ^し て ^も 次 ^の 如 ^く 言 ^つ た。

増加し、往つて貴
 族階級の

6
314

(+) ATHENA

「植民の利益を知らんとせば、一國に對する國
 債に於ての事ならず、人類全体としてこの種債
 的利息を奪へぬを得ぬ。此の關係は吾國に
 はさう分犯の關係に即ち一言佛市場の過剩と
 緩和して他の市場へ供給するものと一取扱
 はれし居る。之れは之の通りである。併し之
 れは又生産の關係であり、世界の生産的資本
 の最も有效なる利用の關係である。貸付と最
 も廉く買ひ得る要より輸入することの経済的
 利益に於いては多く論じらるるが、
 生産し得る場所の配分と生産するの経済的
 利益に於いては比較的と多く考へらるるが、
 一言佛者及の資本と由國より移しき社會へ
 之の生産力の小なる要より大なる要へ出すこ
 とは、世界の管脚及の資本の生産總額を甚か
 しく増加する所以である。1) 國際的合業の擴
 張に伴ふ生産總額及の總額の増加、かくて
 植民の效果は、量的及の質的意味に於ける人
 類經濟の發達、
 望峯理由東印度航路の發見は人類歴史に記録
 され、
 類經濟の發達、
 望峯理由東印度航路の發見は人類歴史に記録
 され、

6) 1) Mill, J.S. Principles of Political Economy. (Ashley's Ed. p.970)

ヤウれたろ二つの最大最重要の事件である」と
いへると敵て過言ではないであろう。

植民に伴ふ文化の世界的普及、^{民族文化内}

容の豊富なること、及び植民地に於ける新

文化の発展等に於て、植民地御の人類文化に

對する利益もたせられたり、こゝには之を評論

併せざる資本主義 ^義 経済社会に於ける植民の價

値に對しては、更に階級的見地より之を考案

植民地の資本主義階級に於ける特殊なる地

位に於けるは前章に於て之を説明したる如く

家の利用進歩に基く資本主義と其の存続

擴張的生產に對して 植民地はその存続

の不可欠なる条件 ^{を為す} である故に植民地は

本家的階級の必然の要求である ^{共產黨言}

はそのことを述べて、「彼等の生産物に對し絶

えず益々擴張せらるべき敗路に向つての陥

は、地球全体に亘つて有産者階級をかりたこ

る ^{彼等は} 到る所に巢窟を、到る處に植民し、到

る ^{家と} 連合を、作らぬと云ふ ^{と云つた} こと ^は

植民地の資本家階級に對する價值は ^{論に}

植民地
の利益
に對して

7
植
9/15

3) 河上肇 ~~著~~ 社会階級と社会革命. P. 215-216. 1-23

2) Smith, A. W. of N. Vol. II. P. 125

大であるか、地は労働階級に對して

とは如何なる價値を有すべきか。

カウツキーは植民地を労働植民地 (Arbeiterkolonien)

及び搾取植民地 (Ausbeutungskolonien) の二種に區別し

て論ずるの必要を力説した。彼によれば労働

植民地とは北米植民地^(在米國)如く、人口稀薄なる

土地に移住者が未住し自己の労働力を發揮す

るものに於て、^{に代ふる}他種な植民地に於て未開人の

労働力を^{に代ふる}に、^{他種}の文化的階級に

相當せる高級の生産力を置き換へてするのみ

ならず、^{に代ふる}他種自己の生産力を^{に代ふる}本國に於ける

よりも遙かに急速に發達せしめ、^{に代ふる}従つて人類

の一般的生産力發達の有力なる平即力となる

ものである^{に代ふる}。この種類の植民地政策に對して

は吾人は決して否定的の態度を取らざるものに

あらずといふ。^{に代ふる}之に反して^{に代ふる}搾取植民地は^{に代ふる}搾取階

級の移住し、^{に代ふる}而かも^{に代ふる}永住の意思なきものであ

るから^{に代ふる}労働者の生産力を破壊して^{に代ふる}顧みない。

この程、^{に代ふる}植民地より^{に代ふる}世界的に^{に代ふる}供給せざるべ

き生産物の數量を増加せらるゝ。併し^{に代ふる}作らざる

1) Kautsky, K. Sozialismus und Kolonialpolitik. S. 25.

8 植 310

9
317

これは生産力の発展と同義味ではない。生産力の増加とは同量の節約使用(に由来)の供給(せらる)を生産物の増加を謂ふのである。與産階級はとりて根柢的には重要な存在である。而して採取植民地に於ける植民地御は土人労働力の強制的使用即ち採取に存するの故に、その生産力は却つて破壊せらるゝのである。植民地に對する投資、殊に鉄道運河等の建設は、その生産力を増加するの如き外觀を呈するが、それは以上に軍事費植民地の財政的負担を増加するが故に、政府は強固植民地の生産力を害し、植民地の消費に當りては、生産物の数量は却つて減少し、かくの如き事情の下に於ては、経済的進歩も、植民地の貧困化の一の手段となる。2)

本國に於ける生産力の發達を助くるかといふに、此輩の植民地より歐羅巴にもたらさんし、富は莫大なるものがあるが、(之は與産階級に起る) 植民地相互の戦争の費用を減少せしめて、破壊的の結果をあり、若し又勞働の如く之にふくむと、その生産力を増加し得たる國にありては、その利益

2) 同上 S. 41

6

1) 同上 S. 30

6

10

918

(+) ATHENA

10

は他国及心地地ノ犠牲に於て得る下々ノ
 であり、且つその利益は有産者階級に物する
 不政に階級闘争上に於ける借葉ノ地位を有力
 なる一者、以て無産階級と不利運送路七一
 た。1) 帝國主義的終極に於て市場擴展は本函
 御名に際して貸銀とよする利に有利なる如
 く見申すべし。借葉者に借葉を借するも
 は何の借御階級に能く是認すべしといふ
 わけには行かぬ。軍部も亦借御名に利を
 不、借御名と軍部主義は借御階級ノ敵にあ
 資本家階級に於ては軍部主義同様に、借御
 政策は一ツ必然である。借御名に於ては
 世界階級に於ては借御名政策の必然性
 りと強論するは論理の誤りである。2) 軍部
 借御名は軍部主義に於ては借御名は悉く
 控取地地であるから、借御名政策は軍部主義
 と同じく、資本家階級の常服と永くし借御階
 級を虐待せしめんとする手段である。無産
 階級の利益よりいふと、人類生を才て借御
 一般の是地よりいふと、是に反對すべきもの

1) 同上 S. 32-33

2) 同上 S. 44

11
919

である。と。
 以上の如くカウワキーは論じた。彼は階級
 闘争の實際的戦略の立場を執らざる可からず
 為はしむ。故に彼は所謂御地主地、
 今日、^{（しはや）} 御地主地、^{（即ち）} 御地主地、^{（種）}
 類の地主地
 の利益を論ずるは「單に学問的意義あるのみ
 にし、何等政綱的（programmatische）高義あるも
 のにあらず」といふ。従つて彼の存在
 するは現在の資本家の地主政策である。作
 の資本家の生産市場と同様に、資本家の地主
 政策も亦其階級に依りて歴史的にあり、單
 の資本家の利益のありは一般の生産力に阻害
 せざる、競争を伴ふ、併作さ^{（彼）}は植
 民と地主政策との区別を明かにし居る。あ
 り。資本家に依りて地主地はより重要な一要
 素たるが故に、資本家の地主政策を攻撃する
 べき階級闘争上の
 地主地の實際的利益を否定することはいかな
 り（市場とて地主地の問題は無く措き、食料品及原料品
 ない）食料品他、原料品、農産物、その他、生産
 の供給者として、地主地は、国際的市場の

3) 同上. S. 45
 4) 同上. S. 27
 〇

資本主義に伴ひて益々その重要度を加へる。その
 必要は(社会)の主義(の主義)の資本主義的の大きと社会主義
 的の大きとに於て異なるない。社会主義的の生産
 手段と生産物の分配の供給は地帯の必要の
 件であるから。而して工業の供給は(社会)の
 供給の地帯は(社会)の移住地帯(カウワキ)の所謂地方
 御地帯(地)の大きと投資地帯(社会)の所謂探取地
 帯(地)の大きとを同じない。半産市場の未だ幼稚
 なる地方とを進展せしむる世界経済の系統中に引
 き入れ、後者の必要とする官制の材料の供給

有ることは、社会主義者といへども年々その定
 りないところあり(或は)労働階級の立場よりいへば
 自己の購買力を増加(せしむ)ることによりて国内市
 場の擴張を計ること(べき)が最も有利である。故に
 資本主義が衰へるに依りて外市場の御地帯
 市場の必要は減退するにあらう。又干渉主義
 者の立場よりいへば、不平等と氏との自由
 なる交通を理想とするが故に(社会)の衰へ

12
 植
 320

植
321

れは地産地消の傾向は是の必要を喪失するであ
 る。併し平和的耕田改良の基に於て特殊生
 産物供給者としてこの地産地の価値は
 伴ひ常に増大すること、決して減減すること
 はない。資本主義的植民地主義は植民地を
 植民地政策の方法若くは地産地消の価値に因しては
 之を批評し攻撃するを得や。此の地産地消
 によるものは、
 下と上との間に官治的植民地の価値の増大と
 忘却してはなからず、
 會に於ける鴻況、植民地政策を行ふことは
 小自体に於ては犯罪ではない。植民地政策を行ふ
 ことは或る事情の下に於ては文化的行為であ
 り得る。たゞ向後は何に植民地政策を行ふや
 に存するべきである。

1) 同上 p. 26
6

68
36
24

植民地政策の
 目的は、
 植民地を
 植民地として
 利用すること
 である。

植中
に於ては
住宅の
賃金の
効果の
結果

し得べき之を長服せしむべき力を養ひ得
と、之ハスミスノ見本ナリ 賃金高クみする植
民ノ賃値視てある 年々凋落し何れと云ふ深きや
以上所述は実質的の植民の賃値についてい
る。植民地領有の賃金に及ぼす利益に自
己は後述に九塊と述べらるゝ。
植民地領有の賃金に及ぼす利益に自
己は後述に九塊と述べらるゝ。
植民地領有の賃金に及ぼす利益に自
己は後述に九塊と述べらるゝ。
植民地領有の賃金に及ぼす利益に自
己は後述に九塊と述べらるゝ。

人口移出の效果に就ては賃値及人口消極の兩
面あり。之を以て本國の社會的對害を除
くに有效なりとの見解に從つば、賃金は人口
過剩の弊を阻止し、從つて労働市場に影響し
、賃金を高め、生活程度の水準を維持し、貧
民及び失業者の問題を解決する所以なりとす
る。ベーコンは一六〇六年にジエームス一世
に對し愛蘭への移民を建議し、之れに於て未
の移民たるべき人口を抽出し、之を有用な土
地耕作の爲めに有用に使用し得るの二重の利
益あり、その國領は皆も沼澤地に家を建てる

14
植
322

杉

4- 植 323

人口過剰
対策と
移住

(+) ATHENA

とする者が其れを排水して噴霧又は実用
 運に利用するが如きものがあると言った。¹⁾
 之に反し消磁湯によつて移住を以て其国
 師の供給を減じ生産力を官するもの
 ありは「軍事十万の移民の出生するは、
 の軍隊がその武器糧食と共に年々
 一に消失するに等しい」とある。²⁾ 或は又
 之ヤ一の如く、「富者は原則として移住を
 欲せず、貧民は移住の資力を乏しか故に、
 多く堅固なる中農階級に属し、従つて本
 有する節御と資本とを失ふことによりて
 失するの多きを、本國移住に於ける貧
 為隔は却つて大となるといふのである。³⁾
 思ふに移住によつて本國人上の絶對的減少
 を生ずべしとは一の杞憂に過ぎない。⁴⁾ 移住に
 よりて人口の絶對的減少を来たせるは、
 ありあつて、しかして移民は、
 在り生流能か(その)を支持するを得べき人口は
 三百戸以下との計算にして、
 島は現今に於ても尚人口過剰ありと言はねば

3) Roscher, Kolonien usw. S.336以下
 4) Knowles, Economic Development of the British Overseas Empire. P.91

1) Merivale. Colonization. P.140 以下
 2) Rueso, G. B. L'Emigration. P.100 以下

924 植

なるまい。移民が起るといふに人口減少す
 るにあらずか、人口過剰なすべしに移民が起る
 のである。自給的移民は人口P、ホールの
 比喩に水は健康体の血の如きものであ
 った、その水が却つて活力旺盛の証拠であ
 り、移民数は通常少数に止まり、一國全体の
 口に對する影響は口と人口の船渠の開閉が
 洋の水面に及ぼすの如くに微細である。更
 移民はより生じたる人口の空隙は、本國に
 移す移民率出生率の増加を刺激するに
 やつて人口の自給増加によりて是れさる
 。故に移民はより一國人口の永続的減少を
 おとす、は當りない。伴つて同様に又、移民
 は國人口問題の根本的解決たるべきである。
 住(可達) 統的行はる、か、或は人口増加
 に法する利限的作用の同時に御くを付ければ
 移民はより自給増加はやれど旧状態を恢復
 するにあらずから。
 移民の生産に及ぼす影響は労働供給の減少
 である。資本家は労働市場に於て供給の過

1) Leroy-Beaulieu. Colonisation. R 680

17
植
325

子も以て利益とする。殊に賃借の目的的循環
 に基き、今日の不景氣に於て生じた失業
 者は昨日の景氣回復の準備として固めに留め
 置かざるべきことと要する。然るに
 近に存在する二とは軍中労働賃金低下の潜在
 力たるが、本日の賃金削減に於ける
 失業の一要件である。故にメリヴァールは工業
 的失業者の物価を以て固に維持するに對する
 自殺的行動なりと爲し、ルロア、ホーリエーは
 工業的恐慌に際し賃借によりて労働者を威
 嚇し労働賃金を高き水準に維持して置かざる
 是は回復一たるべき生産の増進を阻害
 し、更に恐慌を長引かせ、又は新卒の恐慌を
 惹起するに至るべきである。労働者は
 此も亦かゝる場合に物価する代りに失業の
 然らば、幸甚一と云ふ方が有利なりと論じた。
 此最も明白なる資本家的論理に依りては、
 労働者は固に賃借の維持を期すべし。然るに
 而して失業の之を資本家的運河に於て固に維持する現象たる限
 程度に於て労働賃金を下すべし。如伊は、労働者
 自身も期するに於ける失業労働者の支持は、当然
 労働賃金を下すべし。

6 (2) Leroy-Beaulieu. 前出. P. 683 以下

6 (1) Merivale. 前出 P. 150

18

326

資本家の法金に負担に帰すべき部分で
 あり、^加 資本家の世直し、^{とは} 資本家の支持は最
 低生活費を標準とせざるべからず。一か
 ち資本の拡大は、資本家の村舎もその支持費の負
 担を軽減せしめたるべし。かくて移住を奨励
 の聲が資本家側^{に起り、労働階級は却て之に反対する。}に
 響く。失業緩和の一手段となり、労働者及び資本
 家の双方に取って或程度に庶民的価値を有する
 もりである。

工業労働者の移住を以て不利なりと有せ
 るに、P. 101 は農民の移住を以て利益
 ありとする。その理由は、農業上の恐慌は工
 業恐慌と異なり、永引く性質を有し、且つ農
 業上の凶作は長年日本農産物の輸出を
 所滞 *cleaning of markets* を必要とするが故に、農
 民の移住は右側の利益であり、又耕地地に前
 述の農民はその最上級に税額を移す^は 移住
 所得といふに、^左 早稲米は日本資本家の
 所得の^右 土地開墾 (land reclamation) に基く農民
 離村

1) Leroy-Beaulieu. 前出 P. 688

6

19 植 329

は英国産業革命の一特色であつた。土地の價
 値が上昇するに随ひ、地主は農業生産力
 を増加せしむる所を求め、之に基き、
 大牧場、工業労働者の^{集中}と共ニ之を
 最初に信託^{技術上}の必要條件となり、
 此の^{技術上}に於ける如き結果
 は資本主義化せるべきやは一の途程である
 我國に於ては農家の耕作区別及所有区別
 若し一町を去るが過半を占む、かくの如き
 市規模の産業を以ては利益を失はせしむる
 一級は承認せられ、^{農業者生産力を増かし} 振興せ
 らるゝ。此は大農法により、機械力應用の途に出づ
 るの一途である。自作農は^{雨風} 他業に
 農業者の御者と成り、経営環境に基き御事の
 終住^{技術上}は工業労働者と同様に論ずるを得る
 である。又農業の^{技術上} 本主^{技術上} 初化^{技術上} は工業に於ける
 の如き程度に於て行はれ、^{技術上} 現由^{技術上} である。

、現在由自作農の御事^{技術上}を以て農村の中心
 たる一人とせしむ。我國の如く農家の耕作区別及所有区別が
 昔は一町を去るが過半を占む状態にあり、^{技術上} 此は^{技術上} 農家経営上之を

、現在の一町を去るが過半を占む状態にあり、^{技術上} 此は^{技術上} 農家経営上之を

耕作区別 (大正十年)

(百分比)	五分未満	五分以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上
耕作区別 (大正十年)	35.13	33.40	20.75	6.73	2.76	1.63
所有区別 (大正十年)	44.21	24.29	18.15		4.68	3.57

328 植

果の出移

移住の
利便的

(+) ATHENA

271

ふ。如くに耕地の擴張に極めて限定せざるは
 不始に勢ひ農村人口の移住を必要とするであ
 る。人口過剰の^{對策}として、^者失業^{問題}の^{解決}と
 して、農村振興の方策として、移住は徹底的
 の解決を要するものではない。と他應急的の
 效果を有するに過さぬ。併作するとい
 的又は地方的たりとも移住の團体移住に於て
 有利なる影響を認めぬべきあり。^{移入}
 移住に伴ふ資本移住の團体移住の效果に因
 して本市資本の兩端あり。先づ移住者の携帶す
 る資金に因りては之を以て國外への喪失と見
 ることとせしめられども、移住の持参金の
 如き女性賃上巨額に上ること稀であり、且つ
 移住地に於ける生活は多分が利潤をもたらし
 従つて本國への送金も多かるべく、又^{本國}
 の貿易を刺激することによりて積極的にな
 國産物を發達せしめるの利益がある。此等に
 移住は^{人口過剰の對策として}産見制限の至然消極的なるに
 する。一方に資本家による投資に因りて見ると、

移住の人口過剰
 解決力に重きを置
 かりしマスも一
 時的救済策として
 移住の利益を力説す
 るに在りなかつた。
 「否、ほど移住は少しも出
 なくとも人口は漸次増
 加し、必要の林業
 には一歩も進めず、
 遠近の期を
 に於いては最も甚しい
 苦痛を忍び、
 加、此の悲境の程は人
 了り、如何に努力して見た
 ても、到底緩和すること
 出来ぬは、
 ……か、
 を救ふ(唯一)の途は人口の
 移出である。たか、移
 出問題は、
 して、
 英國政府の注意を得
 するところである。
 とは彼れマスルスの言で
 あった。」
 1)佐大前原談、人口過剰 R.115

2
植
929

(+) ATHENA

植民地
の
利益

その国内使用は国内蓄積を維持しその生産力を増加する所以であるから、監視に資本の流出するは不利である。但し、資本的利潤は、輸出によりは国外投資は高率の利潤を獲得し、資本の流出するに非ざるから、国内に資本の本流刺とあふんから、国外に流出するは、資本的利潤の減少を招く。且つ平均利潤率の下つ降や阻止は、資本的利潤は、且つ本國の南島に對する市場建設の効果を有する。地は生産力を発達せしめ、物産の増進を有する。その結果は、植民地投資は、資本的利潤を生ずる。其の流出するは、資本は、植民地に於ては、市場の建設に利用せざるから、資本的利潤の減少を招く。故に、資本の流出するは、資本的利潤の減少を招く。

故に、植民地は、資本的利潤の供給地として、及木本國の利益に對する市場として、植民地の本國に及ぼす利益に對しては、私は、これに詳論するの必要を感ずる。要するは、資本的利潤の植民地に對する分業の利益は、人類社会の一般的に受益するものである。特に植民地の獨立に歸する結果は、植民地の利益である。故に、資本的利潤の植民地に對するは、資本的利潤の供給地として、及木本國の利益に對する市場として、植民地の本國に及ぼす利益に對しては、私は、これに詳論するの必要を感ずる。要するは、資本的利潤の植民地に對する分業の利益は、人類社会の一般的に受益するものである。特に植民地の獨立に歸する結果は、植民地の利益である。故に、資本的利潤の植民地に對するは、資本的利潤の供給地として、及木本國の利益に對する市場として、植民地の本國に及ぼす利益に對しては、私は、これに詳論するの必要を感ずる。

植民地の利益は、植民地に對する資本的利潤の供給地として、及木本國の利益に對する市場として、植民地の本國に及ぼす利益に對しては、私は、これに詳論するの必要を感ずる。要するは、資本的利潤の植民地に對する分業の利益は、人類社会の一般的に受益するものである。特に植民地の獨立に歸する結果は、植民地の利益である。故に、資本的利潤の植民地に對するは、資本的利潤の供給地として、及木本國の利益に對する市場として、植民地の本國に及ぼす利益に對しては、私は、これに詳論するの必要を感ずる。

移住

は、正にヨーロッパが疑問と設計して、一利己主義
 者は言ふてあらず、植民の企業は植民地を鎮
 有せんと国を同じく利するやであるや、
 吾人は他國を以て費用と負担せしめ、自らは
 何等の犠牲と拂はぬことの利益に興つか
 う、¹⁾と為せる^{利益}を以て合理的なりと為さぬ
 利益の有るや、^{利益}と云は、^{利益}植民は利
 益の問題にあらず、義務の問題なりと云ふて
 植民地領有と辯護し居るの^{経済的}ありか、^{植民}利
 益^{経済的}は植民地領有の利益か^{若し}存在すしせ
 は、如何なる^{利益}に在るかを見よかな
 ない。
 先づ移住は経済的条件の最も有利なる地に
 對して行はれ、其地が政治的に自國の領土た
 りや在りやを問はず、^{利益}。獨立英國及び日本が植
 民地^{利益}（屬地）の移住地としてその價值に
 一表と見よ。獨立の移住地^{利益}は獨立領土
 在らずアフリカ及びアーストリアへ移住す
 べきか
 或は^{利益}實質的に移住を奨励する要件に
 故に外ならずまい。^{利益}英國は多く
 「移住植民地」を

391

1) Girault. Principes de Colonisation. Tome I. P. 29

29
植
392

(四) 日本人内地外在留者数 3)

年	台湾	朝鮮	樺太 (明治40)	南洋 (大正10)	関東州	米國(大陸) (明治37)	布哇 (大正10)	其他外國 (明治42)
明治33	37,954	-	18,281	-	-	48,354	65,008	26,231
明治43	78,084	171,543	28,688	3,671	62,337	76,714	65,760	79,683
大正12	181,847	367,618	136,928	5,203	168,660	181,393	118,832	172,125

倍し
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

移住者
在留者
收養者
教
は
外
國
に

年
心
年
7
2
植
中
地
の

二
三
五
人
天
正
十
二

人
外
外
在
在
者
者
合
計
四

為
者
計
六
〇
〇
五
六

る
日
本
人
植
民
地
に

二
分
一
派
の
移
住
地
に

つ
米
國
は
英
子
人
に
よ
り

有
才
者
は
少
く
も
、
南
洋

3) 内閣拓殖省、殖民地便覧(大正十四年)。外務省通、海外在留地在及本邦人員数表 卷等による。

又
下
表
の
印
刷
頁
7

第一表

(I) 独立移民移住地別 1)

年	総計	歐洲諸國	米國	南洋	其他南洋 7+11)	アフリカ	アジア	露地
1912	18,545	90	13,706	225	4,198	4	-	322
1913	25,843	68	17,124	140	6,120	32	-	359
1921	23,451	770	9,080	6,872	6,338	391	-	-
1922	36,527	57	24,605	5,261	5,982	607	15	-

(II) 英國海外渡航者行先地別 (歐洲以外) 2)

年	総計	米國	カナダ	露地及 西葡	南洋	其他
1912	467,762	117,354	186,185	96,815	28,218	39,190
1913	469,591	129,114	196,290	97,945	25,861	40,381
1922	248,289	61,826	67,690	57,151	21,414	38,206

1) 1912, 1913年は H. Waltershausen, Auswanderung (H. d. S. 第四版), 1921, 1922年は Statesman's Year Book による。
2) 1912, 1913年は H. d. S. 1922年は Statesman's Year Book による。

七

地に居住する内地人口の増加も甚しいものがある。これは、年報在留者数に却るから、漸く内地人口の増加が一年半分に達するに過ぎないものがある。朝鮮籍には十千七百方人、台湾には三百八十方人の居住人口を有し、内地人轉住の所定は甚だ限られてゐる。如何に領有統治の能力を有するかと、自然の社会的条件、轉住に對して不利な地方を以て、有力な級子吸收地となすことも出ない。

併し乍ら各植民地に就て居住者以外の人口を調査すれば、その大部分は本國人たるを見ることが出来る。(第二表) 此の事實は、若し自然的條件に同一なるか、其地域が本國領土の一部をなすときは、(本國人の轉住に對し) 社会上法制上邊かに有利なる条件を提供するものなることを云ふ。殊に、(他國に對し) 轉住制限法の規定せざるに、(他國に對し) 轉入國が特殊國民の入國を禁止する制限するに、(他國に對し) 自國統治の下に轉住地を有することの利益を痛感するにあらう。

人口密度一平方里に内地 2,358人、朝鮮 1,250人、台湾 1,705人 (内地に便略)

人口密度一平方里に内地 2,358人、朝鮮 1,250人、台湾 1,705人 (内地に便略)

25
植
332

地に居住する内地人口の増加も甚しいものがある。これは、年報在留者数に却るから、漸く内地人口の増加が一年半分に達するに過ぎないものがある。朝鮮籍には十千七百方人、台湾には三百八十方人の居住人口を有し、内地人轉住の所定は甚だ限られてゐる。如何に領有統治の能力を有するかと、自然の社会的条件、轉住に對して不利な地方を以て、有力な級子吸收地となすことも出ない。

併し乍ら各植民地に就て居住者以外の人口を調査すれば、その大部分は本國人たるを見ることが出来る。(第二表) 此の事實は、若し自然的條件に同一なるか、其地域が本國領土の一部をなすときは、(本國人の轉住に對し) 社会上法制上邊かに有利なる条件を提供するものなることを云ふ。殊に、(他國に對し) 轉住制限法の規定せざるに、(他國に對し) 轉入國が特殊國民の入國を禁止する制限するに、(他國に對し) 自國統治の下に轉住地を有することの利益を痛感するにあらう。

26

934

植

五. 日本植民地人口 種族別比較表 4)

(大正十二年)	原住者	内地人	外国人
朝鮮	17,446,913	403,011	35,039
台湾	3,763,548	181,847	30,703
関東州	774,454	168,660	1,140
樺太	1,789	136,928	246
南洋羣島	49,070	5,203	65

表
下
カ
ア
ケ
ハ
組
入

4) 植民地便覧

人口表

(+) VNEHIV

33

第一表

一. 独逸植民地に於ける白人人口 1)

年	総計	独逸人	其他
1910	28,846	23,952	4,894

二. 英國植民地移入者

a. カナダ 2)

年	総計	英國人	米国人	其他
1919-20	117,336	59,603	49,656	8,077
1920-21	149,477	74,262	48,059	26,156
1921-22	89,799	39,020	29,345	21,634
1922-23	72,887	34,508	22,007	6,372

b. 露西 3)

1902-1908年間の移入者総数 221,334人中 英 82.1% は英人であり、更にその四分一は英本国人、二分一は露西人、残り五分一は他国籍人。

1) H. d. W. 前出. S. 75.
 2) Statesman's Year Book
 3) H. d. W.

27

植
935

貿易

投資
ATHENA

貿易関係に於ける植民地の利用も亦
 同様に請せられ得る。最も廉さ地より買取最
 も高き地に賣るは経済行為の原則にして、貿
 易は如何に自國の旗の下にありと雖も、天然資源
 の乏しき地方は原料品供給者として
 甚だ微力であり、又住民の購買力にして豊か
 ざるや、本國商品の市場たる新用も亦乏し
 い。植民地より見ると遠隔たる本國より買取
 るは直接せる外國より買取を以て有利なり

投資について最も利廻りの最も長く且つ回収
 の最も確實なるべき地を求めざるが自然であ
 るか、他の条件に同一なる本國の統治
 権に服する地域は殊に安全なる投資地である
 。且つ外國に於ける移住にありても、移住の
 送金又は投資利子の受入等は、あるか、直接に
 は特入國の経済的発達を助け、自國に對する
 競争力を促進せしむることあり。故に自國の
 土に對する植民地管御及投資を自國の利益
 爲より失はれ行くことを防ぐ効果がある。

1) Roscher は外國に於て「かの移住者は、租界及び領事館の所有全て
 が規則正しく本國より失はれ行く」ものであつて、本國はそれだけ有效な
 る資本と労働を減少し損失になる。若し移住者と本國との経済的
 関係が維持せしむるとは本國に於て有利なりとし、従つて法外
 移住は本國の利益に於ては、東南接壤國殊にトルコは將來独
 逸領となるべき希望の下に、上等の近接地域に移住せしむべきなりと
 した。(Roscher. Kolonien. u. s. w. S. 339-342)

收

然るに植民地に就てその貿易關係を見るに
 本國との關係は外國より關係に比して一般
 的に密接なると見る(第四表)。之には地理的
 關係を考慮するを要するが、其植民地社會
 の本國と慣習傳統を共通にする外、用法は
 施の下に於ける共通若くは類似の法制を有
 し、殊に本國と共通の關稅地域を有し或は特
 惠關稅の制度を有することとを以て主たる理由
 に數つを挙げたるに在り。此最後の理由(植民
 地領有に基きて始めて可能となる。故に他の
 政治的連結)

條件にして同一まうが、植民地の領有は本國
 の貿易に對し特殊の利益を有する。若し他國
 の自己防衛上食料品原料の輸出を制限し、
 或は關稅政策によりその市場に障壁を設く
 るときは、よめに自國々々地理の基礎を危く
 せざるべく、反自國の植民地貿易に對し特
 殊の法律を施行することにより排他的利益を
 受くるであらう。

ア、ダニスミスは植民地領有より期待せられ
 植民地生產及び貿易独占の利益を以て、本

大陸の
 地域の
 地領有

29 植

937

30
植
998

國の絶對的利盆を害するもつであり、独占は
 自由貿易の場合に自然的に達し得る程度以上
 に本國の利盆を増進せしむるもつがなく、た
 り外函の生産を害することにより本國の優
 越さはかゝるの相對的利盆あるに過かざるよ
 と考へた¹⁾ 併作ら資本主義國家競争場裡に
 リては、スミスの力説することなかりしこの
 相對的利盆を却つて國民生活の安全確立を
 促進の基礎として見らるゝ²⁾ 各國は之
 の領有する植民地に於て一大經濟地域を支配
 することをもつて必要となりとするに至つた。
 フリドリック・リストは既に「獨逸實業論」の商業政策の中心
 長を以て「國民的獨立 (Nationalität)」、⁴⁾ 神國國民的
 獨立の永續に於ける保障にありと爲し、「獨逸
 國」の需要する木綿糸及び麻糸を自ら紡加
 る限り、その需要する植民地^的産物を出る直接
 に熱帯地方より得、且つ自己の^{工業的}生産物
 以て交換をなさしむる限り、この貿易を自己
 船舶によりて^行はせる限り、……獨逸國親同
 盟かゝるの^植植民地地方並に和蘭及び日身義

1) Smith. W. of N. Vol. II. P. 95. 拙稿アダムスミスの植民地論 (經濟學論集 第三卷 第四号) PP. 43 頁 48-49.
 2) "die grosse Wirtschaftsgebiete." (Hilferding. Das Finanzkapital. S. 419-424)

6

941

續

課税の延長を以て正義に通ふと為したるは、
 アダム・スミスがアメリカ植民地に対する本國
 母なる、に對しては反抗を企つてあらう。
 とを要する、決せんや、植民地は經濟力を破壊
 たりとも之を以て本國の收入に帰するこ
 ろに及びては、万と云ふその財政状態が富裕と
 地が社會的に本國と合一せざる限り、換言す
 此は植民地に於て獨立の國民的意識の發達す
 るに及びては、
 教例であるか、この種の利益は永久に亘りて
 之を期待するに困難である。何と云ふは植民
 地が社會的に本國と合一せざる限り、換言す
 此は植民地に於て獨立の國民的意識の發達す
 るに及びては、
 ありしものも母國の一般會計歳入に繰入る
 の餘裕を有す。²⁾

現行の印支豫算に於ても英本國內に於て支出
 せらるべき金額は印支内に於ける支出額の三
 分一に上り、之等は英本國内に於ける軍隊營
 生費、¹⁾ 印支官吏に對する恩給
 年金等である。¹⁾ 台湾は我國植民地中唯一の財
 政地、本國より財政的補助を受けざる唯一
 の地である。更に従来特別會計の歳入に
 ありしものも母國の一般會計歳入に繰入る
 の餘裕を有す。²⁾

(4) ATHENA

1) 1924年印支豫算に於て、歳入総額 131,117,000 磅中英國に
 於て收入せしむるもの 1,888,000 磅、印支内收入 129,229,000 磅。又歳出
 総額 130,879,000 磅中、印支内支出 100,161,000 磅、英國内支出
 30,718,000 磅である。(Statesman's Year Book, 1924, p. 137)
 2) 即ち(一) 明治四十二年迄は關稅收入の一半を、(二) 大正二年
 度に於ては砂糖消費税の一半を、(三) 同一年度からは内地に於て消費
 する砂糖に對する消費税の全部を總一般會計に繰入る。(四) 又行政費
 理の節約額をも母國會計の歳入に改めたる。(台湾總督府、台湾事情
 大正十三年版)

本島が（植民地に属して）負担せる軍費及び統治
 費は植民地自身に負担せしむるの趣旨に於
 て、^{（必ずしも）}理由なき^{（提議）}はなかつた。是れ
 にも拘らず米國は五に反抗して遂に独立する
 に至つた。米國独立後経緯を察し英本國は
 自費北美及西印の植民地に對して^{（その後）}商業の課
 税をなさず、^{（協会の）}九の貿易并に關係の規整に有用
 なるべき^{（協会の）}課税のすべく、而かもその純收
 入はその徴收せしむる該植民地の利益の爲
 めに之を便用せらるべきの原則を定めた。然
 るに何故に^{（十三州）}植民地は英本國の課税に
 對して反抗したか。それは凡井スの指摘せる如
 く、^{（協会の）}彼等は「一の^{（協会の）}独立的^{（協会の）}団体^{（協会の）}（sovereign Community）^{（協会の）}」
 たり、その住民は^{（協会の）}植民地^{（協会の）}政府を以て特別に^{（協会の）}彼
 等自身のもつと思考するに慣れ居る。彼等^{（協会の）}植民地
^{（協会の）}政府は^{（協会的）}独立的に^{（協会的）}收支の計算を立て、^{（協会的）}居り、
 之れが^{（協会的）}植民地の^{（協会的）}人民は^{（協会的）}植民地^{（協会的）}政府の^{（協会的）}費用を^{（協会的）}文辯
 する外^{（協会的）}何事の^{（協会的）}課税にも^{（協会的）}服すべき^{（協会的）}筋を^{（協会的）}な
 すへる^{（協会的）}習慣を得て居る^{（協会的）}が故である。財政は^{（協会的）}購
 買力、^{（協会的）}強制的^{（協会的）}特權^{（協会的）}と^{（協会的）}する^{（協会的）}視^{（協会的）}する^{（協会的）}べき^{（協会的）}なり。

2) Lewis 前出 P.209

然るに何故に^{（十三州）}植民地は英本國の課税に
 對して反抗したか。それは凡井スの指摘せる如
 く、^{（協会的）}彼等は「一の^{（協会的）}独立的^{（協会的）}団体^{（協会的）}（sovereign Community）^{（協会的）}」
 たり、その住民は^{（協会的）}植民地^{（協会的）}政府を以て特別に^{（協会的）}彼
 等自身のもつと思考するに慣れ居る。彼等^{（協会的）}植民地
^{（協会的）}政府は^{（協会的）}独立的に^{（協会的）}收支の計算を立て、^{（協会的）}居り、
 之れが^{（協会的）}植民地の^{（協会的）}人民は^{（協会的）}植民地^{（協会的）}政府の^{（協会的）}費用を^{（協会的）}文辯
 する外^{（協会的）}何事の^{（協会的）}課税にも^{（協会的）}服すべき^{（協会的）}筋を^{（協会的）}な
 すへる^{（協会的）}習慣を得て居る^{（協会的）}が故である。財政は^{（協会的）}購
 買力、^{（協会的）}強制的^{（協会的）}特權^{（協会的）}と^{（協会的）}する^{（協会的）}視^{（協会的）}する^{（協会的）}べき^{（協会的）}なり。

1) 18. George III. c. 12 (1778). (Lewis 前出P.211)

35

軍の
援助

349

植民地による軍事的援助の最も熱心に論議
せられたるは英國である。十九世紀末以来独

植民地は、その可成るものは同一集團意識に統一
する、國內部には甚だ、段々独立的の國土意識
作持するも生ずる植民地の本國に於ける財政
的援助の如き同様に通用せしむべきはな
或米國獨立前よりアメリカ植民地、或は現代
ドミニオンより如く、植民地の大部分は國
より移住者たる場合に於て既に然りとせば
、植民地の住民の大部分は其の子孫と
族を異にする原住民の植民地は、（自來國）
（可及教を占むる植民地）
（左の）彼等
より財政的援助を期待するは、（左の）實に
植民地は、その可成るものは同一集團意識に統一
する、國內部には甚だ、段々独立的の國土意識
作持するも生ずる植民地の本國に於ける財政
的援助の如き同様に通用せしむべきはな
或米國獨立前よりアメリカ植民地、或は現代
ドミニオンより如く、植民地の大部分は國
より移住者たる場合に於て既に然りとせば
、植民地の住民の大部分は其の子孫と
族を異にする原住民の植民地は、（自來國）
（可及教を占むる植民地）
（左の）彼等
より財政的援助を期待するは、（左の）實に

植民地は、その可成るものは同一集團意識に統一
する、國內部には甚だ、段々独立的の國土意識
作持するも生ずる植民地の本國に於ける財政
的援助の如き同様に通用せしむべきはな
或米國獨立前よりアメリカ植民地、或は現代
ドミニオンより如く、植民地の大部分は國
より移住者たる場合に於て既に然りとせば
、植民地の住民の大部分は其の子孫と
族を異にする原住民の植民地は、（自來國）
（可及教を占むる植民地）
（左の）彼等
より財政的援助を期待するは、（左の）實に

(4) ATHENA

92

植民地
の
費用

軍事的の三方面より觀察した。植民地の経済的
 価値は勿論各領土植民地につき個別の比較
 せられぬゆゑに併せて一般論にいふ
 ときは、植民地貿易は一般外國貿易に比し
 小さい比例を占むるに過かた、又領有により
 て特に期待せしむべき強固の利益は排他的排
 他的性質を有するものである。植民地より
 財政的援助は現実にはその負担をなせし植民地
 の僅少なるゆゑならず、その援助の永續性に
 ついては疑義を得ない。植民地より軍事
 的援助は世界大戰の如き非常時の出来事には過
 した。事情によりては植民地の軍事的叛亂を
 抑ふに力なき如き場合あり、或るに力なき如き場合あり、
 而して上述の如き植民地領有の利益に對抗
 すべき軍事的有力なる一事情は領有の費用にお
 づかぬ。植民地創設費(征服費)、統治行政費、叛亂
 鎮定費、統治行政費、経済的文化的施設設費
 而して植民地領有の費用たる國際的戦争の費用を
 用ゐば、植民地領有の費用たる國際的戦争の費用を
 植民地領有の損益計算に於ては、捕らぬこととすべ
 水にはなるまい。スミスは英國の債権銷却の

946
植

植民地領有の費用を考慮しなすは
 ありまい。

347

一良策なりとせられたる、西の巨額なる公債は
 植民地に因して戦はれし戦争に原因するもの
 頗る多く、「若し之等の戦争にこそ世かりしな
 らば公債は恐らく今日迄に於て完全に支拂は
 小得に依るにあらざり。又若し植民地はこそ世
 かりしならんば、亦た第一の戦争「スベイン」
 争は恐らく、亦た第二の戦争「フランス」
 争は、表すなかつたであらう」とは、スミス月
 身の認めたる事であつた。植民地課税は、
 必然の事柄であつた、故に植民地的に本國財政
 への援助といふを得。最近の世界大戦に於て
 植民地は財政的及軍事的に本國を援助した
 功績大なりと稱せらる。何れもこの大戦
 用は、その山の植民地領有に因するものに
 因する帝國主義的戦争であり、殊に戦争地
 の擴大は全く植民地領有の予實に基けり。も
 りは、或いは、植民地戦争の結果、植民地は帝國
 主義の本國に費さしむる金は、その前には上
 り、財政的又は軍事的援助に数倍するであら
 う。

2) 1830年7月1日一領有以来1900年に至る迄佛國政府の之に對する支出
 は 6669 Millionen Mark, 内 行政費 1893 M.M. 軍費 4070 M.M.
 鐵道補給 706 M.M あり。之に對して佛國の總收入は 1897 M.M に
 過ぎず。(Parvus, Die Kolonialpolitik und der Zusammen-
 bruch. S.17)

1) Smith, A. W. of N. Vol. II. P.432

有及統治の諸費用よりも大なる場合に於て、
 地民地は経済的に有利なりと言ひ得る。併し
 地民地は経営は性質上用途多業の如くであ
 るから其経済的利益は短期間に計留し得べき
 もりである。一而してたとひ長期の發達について見るも植
 民地の形式的領有が果して創設及び統治の費用を差引きて有利なるや否やは不
 明なる、或は疑はしき場合が多い。それにも拘らず植民地が創設せられ維持せ
 らるゝは抑も何によるか。

實利の
 放り地の
 由ある理
 的私利
 的私利

その第一は新階級の利益、第二は義務觀念
 第三は國家的義務觀念である。
 スミスはアメリカ植民地の任意的放棄の提

案を論じ、一かも其の實現の期待も減き理由
 とし、花のめく連つた、由り、
 如何に統治が困難であり、又如何にその經費に對し収入が乏しくとも、
 尤つて自己の屬領を自發的に抛棄したる國民はなからず、如何に其の如き條件
 は度々國民多數の經濟的、利益に適合するものなれど、凡そ國民の自負心
 に對し致命的であり、且つそれよりも尙重要な理由として、常にその支
 配階級の私利に相反するものである。

支配階級たる資本家及び官吏は植民地の領有
 によりて利権甚くは地位を得るが故に、植
 民地に對する政治的支配権は有業体階級の階級
 的利益に重なり國權を握る。植民地國家の政
 策を決定する地位にあるが故に、植民地領有

61
 349

6) Smith, W. of N. Vol II. P. 116

未開社会
義務

母に因する私的利権と以て意識的取は甚高潔
 然し子氏の利益と畏同し、或は子氏も之を畏
 用せしむる。併し植民地領有の維持に
 非難と肉弾とを提供すべき民衆の勢力勃興
 によりて、此意味に於ける植民地領有
 の主張は
 消え失するであらう。

第二は後進社会群の誘導保護は先進国々の
 義務なりと理由に基く植民地領有の主張が
 ある。ローレルは、前にも一言せる如く植民
 地利益計算の同様にあらずが義務の同様にあり、

植民地は收かち家族内の父たる地位を有し、
 子國の養育には多くの犠牲を拂はさるべか
 うかと為す。シレーは領有の義務は英
 及印を以て興する利権はついで果敢の果敢と
 識見、英國の領有を領有せるは一部分は行
 服の空しき野心により、一部分は無後序せざる
 的弊害を除去せんとの人道的希望によりたる
 もりであるが、その動機は如何にもある。
 吾人は大なる責任を担ったるに過ぎぬ。
 は如何なる利権を以ても償はれぬものあり

350

1) Girault. 前出. P. 29 以下
 2) ジョーゼフ・カトク. 植民
 1) Girault. 前出. Tome I. P. 29.

併下らざる為め

43 95/ 権

「属領の人民が分離に同意し且つ自ら獨立の國家をつくる能力ある場合にあらざれば、本國はその属領に對する統治を抛棄すべきではない。たとひその領有が本國にこり何等の利益をもたらさぬにしても、無力なる属領を見捨てざるべき道徳上の義務が存する。」とル井スの言へるが如し。

保薦指導の犠牲を拂ふべき義務を有するであらう。併し注意すべきは、その保護指導たるや植民地社会の個性と独立とを尊重すべきことである。若し被保護者たる社会に1-2相を以て達し、自主を要求するに至りたる時は、植民地領有に於ける人道的根拠は消え失するであらう。此れも特殊の調査を要するが、彼等の領有主張を基礎とするものは、その人道的理由を採擇するに非ざるべきであらう。植民地領有の正当性は、採擇

るに似し、又其の浸透が仰天付体止業へた。新車に付いては平和と秩序をもたらせしむるに能くは、擴張的であつたが、併しこの實験(即ち統治)は、進路せば、何れも未だ完成せず、之を疎さんと欲し、終はぬのであらう。この時、大なる政治力が働いて、東國と仰天と協善は、何れも一層、行爲に結び付けたると言つた。1) 別に他人の行爲に對するに、種々の利益により、その支配せしむるが如く、國民も、何れも、植民地領有に對し、

2) Leroy-Beaulieu 此人教中の文壇人が、未開社会に干渉するは教育指導の責任上、又未開社会が廣大なる土地を未開者の占有せる所より見るに當然のことであるといふ。(Leroy-B. Colonisation P. 84) 以下)

3) Lewis. 前出 P. 326

1) Seeley, J. R. Expansion of England. P. 304-306.

第三は國家的觀念よりする植民地

主張ありて

中興の事

中心より主張ありて

國民的自愛心 (national pride)

植民地領有論の根據たるこ

スミス

史に於いて何等の視點を

中興の事

ル井スは

最後に國民的 (national glory) を

或

之に於ては

「廣大なる植民地の領有より得る想像せらるる處の國家的榮譽」は、「そ

の領土が上述 (實質的) 利益を生ぜざるときには何等真實の榮譽を國民に與

ふるものでない」。

といつた。然るにルカスは一人九一年にル井

スの旧著を刊行するに當りて之に附記したる

諸言に於て、ル井スの輕視したる比の利益こ

と爲る領土より得らるべき比の利益の内最

大なるものなり、國際社會に於て

地位を得且つ之を維持するの重要なる

所以

植民地は愛國心の養成に

シロールは

2) Lewis. 前出, P. 233
3) Lucas, C. P. Introduction. (Lewis. 前出, P. II)

スミスは植民地領有論を博識の代表として提言し、
その實現は國家の利益として「多くの有力者の個人的利
害及び國民多數の幸福たる所見」を挙ぐ。(W. of N. II. P. 419)
前出と前出 (P. 233) と比較すれば用誰
が並行して居るから、na 國民的自愛心 (pride) は國民的偏見
(prejudice) と無款似の觀念に用いたるものと推定し得ない
であろうか。

44
植
952

45
植
213

植
植

(4) ATHENA

52

有利なりとし、ルロア、ホーリユーは植民地投資の利益に愛國心ヲ満足を教へ、ドナンシーの如きは甘ハラの沙漠にすゝ帝國主義的の意味に於ては佛女にとりて「一の價値あり、何となんはとは莫大なる平方キロメートルを占有するから」といふ。³⁾ 「植民地は富の源なり、主權也」
 「吾人は平和の時代にはネミネ、タツカイ等の聰明を謳歌する。併し此の理論を實現すべき機會が來れば……吾人はたゞ國家の威嚴と帝國の保全を思ふのみ。明白に無價値なる領土を自發的に拋棄せんよりは、數百萬の金と數萬の生命とを棄て、惜まぬであらう。⁴⁾」
 植民地にはビスコーリも帝國派屋も昂ふは植民地固有の方針を避けたが、「國民の名譽の一

度公侵さんとするや、全帝國は財と血、身
 体と生命をも賭してその為めに立ちぬはな
 らぬ」とは西南アフリカに於ける英獨の紛争によ
 りこやがて喚起せしむし響の沸であつた。⁵⁾
 此等の國体的な苦心は亦時に私的利を有
 する特殊階級の援用する資となる。眞實に國
 民を愛する者は歴史的、無知偏狹の資を愛國
 心の叫びによりて、實際的の資を正当の判斷を
 得ざるんがふべきである。

次に對植民地競争に基く植民地固有は前

5) Noske, G. Kolonialpolitik und Sozialdemokratie, S. 24
 1) Girault, 前出, P.
 2) Leroy-Beaulieu, 前出 pp. 705, 710.
 3) Denancé, E. Philosophie de la Colonisation, P. 226
 4) McCulloch, Note to W. of N. p. 609

此に、内容的の内容を有す。而して国防上或は
 経済上、若し自國に政治的の支那撤去撤退
 せば、他國の来りて之を占領し、之により自
 國の脅威を受くべき場合に於て、主張せしめ、他國の
 領有はたとひ絶對的には利益をもたうさず
 とも、再臨競争の上相對的の利益を有する
 併せては、比の意味に於ける他國の領有の價值
 去り二つの場合に於ては、存在の根拠を失ふ
 一は侵入すべき他國の存在せず、且つ
 級的に國際の時局の趨勢の發達せる場合。

二は植民地が他國の侵入を防止するに足る
 だけの實力を備へ、且つ自國と友誼的關係を
 維持する場合、之もある。

國の義務心、名譽心、及び競争心は植民
 地領有の感情的基礎として現實することと認め
 られる。併せて支那階級主義の私的利益
 被るが為めは遠征は實の國民の感情を
 被るが為めに利用せらる。故に之を理由
 として他國の領有の理由として支那階級に
 よりして高調せらるゝ時、吾人は十分慎重に對
 の據の眞實性を究めなければならぬ。

954

原住者
に對する
托氏
の優
待
値
ATHENA
(4)

四 二五ノ

最後に、原住者に對する托氏の影響が別個
に觀察せしむればなるべき。原住者は托氏の
實^要なる物質關係にあり、而して左と右の
原住者にしりて甚く利益を托氏に洗御あり
とも、原住者に對しては却つて壓迫的なるこ
とあり得るの故である。托氏者と原住者と
の社会的勢力の懸隔が大であり、且つその

97

植

955-

小

再再再
不任
に
不正
は地
に
りや

植民地と雖も東洋に對しては
 植民地が權利
 的に行はるゝ程なり(甚しき) 従て、原住者に
 對する壓迫搾取も甚しい。私共は植民地の歴
 史に於てその(原住者)に對してスミスが所謂「不
 正」(Injustice)に基きて創設せしめ又は維持せし
 むる多かりし實を看過せしむるを得ない。スミ
 スは東西印度の土人は「恐るべき不幸に陥つた
 と考へたが、」之等の不幸は併せて「植民地の予
 といもりの性根に基きしより、」(原住者の不幸) 寧ろ偶然の予
 情に依りて起つたと思はれる。之等の終末の
 らるゝ特殊の時期に於て、力の優越は
 偏々歐羅巴人の側に甚しく大であり、従つ
 て彼等は「小々遠隔の地方に於てあつた
 奴隷不正を憚らぬく犯し得たりと
 と説明した。」(2)
 カウツキ(は) 植民地の原住者(影) 及はす
 並に指摘し及ぶ。彼等に對しては、
 及ぶ。原住地を区別して論じた。彼ら
 植民地を「植民地」として論じた。

8
356 植

2) W. of N. II. P. 125

1) 「痴愚と不正とは之等の植民地建設の最初の計画を指導したの原
 理に於てと思はれる。金銀鑽山採掘の痴愚と、莫當に土人の
 土地を欲せんと貪りしことの不正。之等の土人は欧羅巴人を寄せがりは
 勿論、あつた。彼等は「恐るべき不幸に陥つた」として最初の搾取を
 受けたのである。」 Smith, W. of N. II. P. 90.

49
357

位者の城下取は必然的であつたか、前者に於ては
 植民者は城下取と目的とをせむる等階級に属す
 るの故に必然的に居住者の城下取と視するやうで
 はあり。又程り植民地に於ても居住者の抑壓、
 甚しきは絶滅さへ行かぬに於ては實にありか、
 之れは又程り植民者の必死の結果にはなく、主と
 して植民者の無権に歸すべき也。然るに事情は
 異なる。土地は(舊土)に故に、若し居住者と教育
 して所ある生業に於ては或るべきを得ぬ、其
 旧居住者と共に載せて養ふこととある」と
 説かした。

併して、移住植民地に於ける居住者の抑壓或
 は絶滅は果して偶々「農民的無習」の如き偶然な
 る事情に基くものであらうか。多数の植民者
 の移住するや先づ定着すべき土地を得ずれば
 由なるや、勿論土地は廣いであらう。併し
 現在人の利用に供せらるる土地は限る
 小に在る。植民者は居住者の先住地域と併し
 未開地の荒野を開拓するが、或る或るは居住
 者の未開地の荒野に退却せしめ、自らその

D Kautsky. 前出 S. 25-26.

先住地域に権限を有するかの言は思はよら
 と得たり。前者は進行あり後者は易行道で
 あり。而して後者は土地の賣買（賣くは）没収によ
 りて行はれり。没収は（強制的）没収の場合も或
 は戦争の結果たることもあり得る。
 五三三の植民者が一六二三年五月にこの戦争勝利を祝する布告書に曰く
 「從來森林伐採が（われ等に）至難の労働たりしに反し、今や我等は國
 中最も豊饒なる地域に位置する處の、彼等の既墾地に來り住居するを得ること
 になつた。彼等を征服するは、正當なる手段によりて教化するに比し、遙かに
 容易である」。

是りて、先住地への通例として、人種文
 化に對する大貢獻ありとせらるゝ。米國及び
 露國に於て最も完全なる先住者の抑壓抑壓驅逐が
 行はれたるものである。而かくう地を先住者の
 返還あり左に似ること、移住地地としてこのか
 くゆれば發達の可能であつたと見ふるを得る
 り。若しも移住地地として米國の發達を
 以て人種文化に對する大貢獻ありとするは、
 必、インダアン人に對して排外的政策を取
 りし地を直に棄置せしめて、無智なりとすべし

1) Merivale. Colonization. P. 491

50
508

51
309

中堅明ありといふべきや、人は迷はむを得
 ないであらう。且つ又但地に於ける原
 位者抑壓は偶然的のことであつて地力
 解と洞業にこそ進歩一たりせば過半得べかり
 しと云ふなりと為すに在り、^{なる所、}投資は
 投資地についてお期待し得ないつてあるか
 。後述に於ては後述者少数は少数であるから
 原位者との社会的接觸は却つて後述地
 地よりむしろ少ない筈である。然るに地
 と洞業とはよりて原位者の生産力と改良し
 るの生産力を増加せしめること何故に期待
 せしむるにありてあるか。力ウツキの^{右の}見解は
 所には偏りなき意見の極に思はれる。
 地力と社会的接觸である。接觸は必ず
 程度より干渉を意味する。原位者に於ける干渉
 不少あるは徳政及び程度に現はるゝや、ス
 ミスのいふ如く而社会的力の關係より、
 又力ウツキ一ついふ如く地力者の政策の何
 によりてとより一極であり得たり。併し
 少くとも地力初期は能く或程度の不利益ある

自任者の
不利益

(4) ATHENA

強利が自任者に加へらるゝは、寧ろ其の本
質に出づることあり、必しも偶然的な
情に基くものにはあり。 其の自任者の利
益ありと云ふは、其れともは法として犧牲を
の利益にあり、 其の自任者の不幸、殊に
其の地に於て滅び行ける、若くは滅びんとし
つゝある種族は寧ろそのために其の地を
犠牲である。

自任者の其の地にありて被る不利益は、
其の生活に於ては突然ある意義革命の輸入に大

る要是者化であり、 其の生活に於ては
其の自任者の不利益は、
其の生活に於ては突然ある意義革命の輸入に大
文化の破壊、 社会的秩序の混乱化にあり。 之
レレは英國の其の地に及ぼせる利益に
對する又解と持するを排斥して攻めんとす
左。 其の如く西洋文明は吾人の想像する如く絶
對的に立派なものである。 其れも
公平に其の自任者の利益に大なる變化
の進行一つあること、 其れは時として其の
ある印象の甚だしくあることと知

52
360

説明
ターゲット

この原本
は、破損の
まま撮影し
ます。

58
361

負債者に
対する
年利

(+)ATHENA

る。多くのものか馬もさもつと羨まものも諸
共に破壊せしむる行く。多くの良きものも果
して起りてや益や利、時とては誤はれ
と。而して更に植身国の競合(費用)は
担能力不相應に巨額に上り、その為め能事
程程及り債の財政的負担に甚しむる。
或は又植身国の政争に禍せしむるは植身
の爲めに戦争の渦中に引き入らるゝの危険
を有す。就中植身国による征服欲をも小自
加る位者の(集國)的独立意識に對する壓迫は最
もその苦痛とする事であらう。何と云ふ外
未だの支配は人格の世視にあり、社会群生
の基礎たる集團意識とのより、~~侵~~侵害であ
から。
或うか植身は負債者に對して何等の利益も
もたらさざるか。先づ経済財政に關しては
~~植~~植身国の資本と経済とによる鉄道其他交通機
關の建設、治水植林等の基礎的事業は植身地
の経済的發展を助くること大である。英國資本
本家は外國

1) Seeley, J.R. Expansion of England. P.305.

54
962

12 討するより、も待ま金利にて、植民地へ投資す
 るが、之は英國統治の優下、於ける安全保障
 あり、の故である。従つて英國植民地は、その需
 要する資金の供給を独自の英本國より得て
 居るといふ。次に社会生活に關しては、植民
 地、衛生状態の改良、及、衛生状態の改良、
 植民地の利益は大である。又植民地内
 (1) 國内の治安維持、植民地は、部分的
 關係を終止せしめ、政治的競争を改革し、法
 治判交を確立して、身体及び(財産)の安全を保
 障することにより、植民地統治は、植民地の
 利益にあり、(7) 且つ植民地
 は本國により、(8) 國防及外交上の保護、(9) 例へば、英領
 下、(10) 本國は、本國に、(11) 此種の保護に
 期待するお多きは、かの新嘉坡、海軍根拠地、
 波内陸に、(12) 漆油政府が最も熱心なる主張
 あり、ありし事により、(13) 知ること
 以上に、(14) 植民地が、領有責任より、
 不利は、(15) 財政的負担の増加、(16) 経済的、文化
 的施設を始め、(17) 設備、(18) 巨額に上り、

1) Knowles, Economic Development of the British Overseas Empire. P. 317-40

斯くの如く地味は原住者に与りても必ずしも常に不利益の及ぶは無い。地味を以て(專ら)資本家の利益に属して階級階級に對しては歴史的なりとすを得る如く、之を以て常に本國の利益に属して原住者に對しては採取の及りとすることは出来ぬ。併し同時に地味を以て人道的慈善事業ありと思考しては有らぬ。とは既に述べた如くは地味國の利益を忘るが如きあり。英國の熱帯地味の階級地味に於ける統治の原住者に對する利益の誘引を高調することと熱心なる経験深きラツガードは之への結論に於て言ひ得た。それは「政界人の頭腦、資本、及び精力は地味なる博愛の精神からアフリカの資源開採に投せられたる如く、又法に投せらぬ如く」との事は、是が認めらるべきである。政界人のアフリカに於ては自己の産業的階級及び(より)高き資本階級階級の上とす。土人階級の、共同的利益のなめである。この利益は相互的と為し得べく、而し

363

2. 此の二重の使命を果たすのが文昭的新政の
 目的であり希望である。ゆえに、いふ事であった。
 此の二重の使命は、果して植民者及び各地位者
 の双方に於いて共同的利益の實現を得
 るにありしか。植民國は、^{之の爲に}自らの
 上よりいふも、各地位者に於ける自治主義的採取
 を~~爲す~~爲す。各地位者の^{利益}實現に於いて自ら^{利益}實現
 せんとの政策をとる。かゝる政策の結果は、^{向上}植
 民者^の社會の發達であり、植民國及び植
 民者に對して自己の自主獨立的地位を^{主張}擴張す
 るに至る。植民地に於て^{不安}不安が存在し、^暴暴
 動も抑えられ、植民地に於ける如く、^即即應あり
 獨立の要求があるに於て、^是是れは、^植植民者の
 族多數世他の習知の^{自由}自由の價値を
 吾人の^教教へたかゝる事である。^{不平}不平を
 のち加へ、^植植民者の進歩の尺度である^とと、^ララッガ
 ーには言ふ。而して、^文文昭的者は、^植植民國はかく
 の如く植民地の終了に於いて満足すべしとあ
 らう。

56
364

2) Lugard. 同上. R. 618.

1) Lugard, Sir F. D. The Dual Mandate in British Tropical Africa. P. 617.

Lugard. 116-117

(4) ATHENS

20

57

365

有是法の國は次第に破れて形文化の隆衰あり
 些微か取り得るがは、一は英國人の政策によ
 りて定まる。併して社會群は個々と同じく道
 常先づ自己の利益を計り自らの富貴を主張せ
 ると欲するものとせば、責任者に対する権威
 の利益を最大に保持するが事因は常、但書自身
 其力は亦ゆゆに衰へたり。又、
 任者に対する利益の肉をを流して、他者の利
 害に於ては土人に對する処置は不正であり「不
 幸」であつたが、「今後は恐らく是等諸國の土人
 はより強く、歐洲人はより弱くなり、世界の
 各部分の住民は同程の勇氣と力とを得、か
 くして相互の畏敬心を起すことによりての并
 独立國民の不正を畏服して相互の權利を尊重
 せしめ得るに至るべし。併して其の力の
 平等を決定せしむるに最も善つて力あるもの
 は、各回向の貿易の擴張が自然的に或は章を
 必然的に伴ひ来るもの、知識及び力の中
 の改良の相互の交換に加くものは無い」とる
 左。本稿は、
 植民地
 権威

1) Smith A. W. of N. II. P. 125

58

966

植

(+)ATHENA

密信者の経済的社会的政治的弱者たる可故に
 植民地は成立した。何れも植民地によりてのみ
 密信者は植民地の搾取に對抗すべき實力を
 涵養せしめしむるべし。